

令和7年度 中山間農業研究所中津川支所成果検討会発表課題及び内容

<花き：13:40 ～ 14:00>

シクラメン新品種「ムーンキャンディ」の特性と安定栽培法の検討

・・・中山間農業研究所中津川支所 研究員 ^{くどう}工藤 ^{けいた}溪汰

当所が育成したシクラメン新品種「ムーンキャンディ」(登録出願中。第35903号)は今シーズンから鉢物及び種苗の販売が始まった。本品種について、令和4～7年度に製品化に向けた鉢のサイズ、移植時期、施肥等栽培方法の比較検討を行ったので、その結果を報告する。

<野菜：14:00 ～ 14:40>

3Sシステムによるカラーピーマン生産の試み

・・・ 農業技術指導員 ^{さいこ}西幸 ^{りえな}利江菜

夏秋トマトでは市場価格の不安定や資材価格の高騰のため初期投資の回収が遅れることが懸念されていた。このため、当所開発の3Sシステムを応用して、新たな品目として国内需要が期待できるカラーピーマンの栽培技術の開発・検討を行ったので、5年間の成果を報告する。

トマト3S栽培における二期作の検討

・・・ 研究員 ^{おおにし}大西 ^{しゅんすけ}竣介

温暖化の影響から、東美濃地域では秋季のトマト収穫量が減少傾向にあり飛騨地域の7割程度の収量となっている。今後さらに高温化が進むことを見据え、高温期に栽培を行わない新たな作型として、二期作を検討したので結果を報告する。

＝休憩＝(10 分間)

<果樹：14:50 ～ 15:30>

クリ新品種「えな大豊（えなたいほう）」の育成

・・・ 専門研究員 ^{みずの}水野 ^{ひさたか}文敬

地球温暖化の影響でクリの生産が不安定となる中、品質が良く収量性の高い品種が求められている。今回、主要品種の端境期である9月中旬に収穫でき、果実の肉質、色がともに優れ、豊産性の「えな大豊」を育成したので、その特性について報告する。

クリ栽培の省力化に向けた機械化体系の構築

・・・ 主任研究員 ^{りな}メルトン 里奈

東美濃地域をはじめとする県下クリ産地では、生産者の高齢化による労働力低下により産地の衰退が懸念されている。そこで、クリ栽培において最も労働力が必要とされる「防除」と「収穫」作業での省力化を図るため、機械化体系を構築したので報告する。

《速報》 15:30～15:45 (2～3 課題)

別紙 1

＜恵那農林事務所農業普及課：15:45 ～ 16:05＞

地元酒蔵から求められる新酒米「酔むすび」の産地化を目指して

・・・恵那農林事務所農業普及課 技術課長補佐 いそすむら 磯村 ひであき 秀昭

安定した需要・価格により生産者の所得確保が期待できる酒米新品種「酔むすび」が育成された。令和6年から恵那管内5営農法人で実証栽培を開始し、新品種普及に向け取り組んできた作付体系・栽培技術や生産流通体制の検討、生産者・酒蔵等の連携による産地づくり研究会の活動支援について報告する。

総合討議：16:05～16:30